

鈴鹿市観光振興方針(素案)に関する意見公募手続きの結果

- *募集期間 : 平成28年1月20日(水)～平成28年2月19日(金)
- *意見提出者 : 7名
- *意見件数 : 53件

No.	ページ	項目	ご意見	対応
1	1	序章	<p>序章において入込数の推移のグラフがあり、観光地とイベントが2014年度であわせて13設定されているが、総合計画も含め、この13の観光地とイベントが目標達成の成果指標の算出根拠となるのか明確にすべき。</p> <p>この13に対して観光地やイベント追加する考えを持つというのであれば、成果指標の合理性が非常に疑わしくなる。7Pに方針の柱が掲載されているが、観光地やイベントを追加して数字を達成しようという動きが出ることは、計画推進にとってマイナスでしかない。何よりすべきでないことになる。</p> <p>「13の観光地とイベントを成果指標の根拠とする」と明示すべき。</p>	<p>鈴鹿市総合計画2023の「目指すべき都市の状態」での成果指標は、三重県の観光レクリエーション入込客数推計書の「観光レクリエーション入込客数」としています。この入込客数数値の調査対象地点となりうるには一定基準があり、2015年現在において本市では、13地点がその基準を満たしています。今後調査対象地点基準を満たす箇所が出てきた場合は調査地点として追加することになり、あらたな観光資源の発掘・磨き上げなどから調査対象地点が増え、集客・交流人口の増加することで、本計画の推進に資すると考えています。</p>
2	1～6	序章 方針の取組概要と方向性	<p>これらのページに書かれている内容を受けて、鈴鹿市として「観光」をどのように位置付けるのかが書かれていない。</p> <p>市民アンケートの結果について、観光振興に関係する2つの項目の重要度が低い要因として考えられるのは、鈴鹿市にとって「観光」が産業として重要と考えられていないことの現われではないか。</p> <p>しかし、今後の社会状況を考えるとき、「観光」がそのまちの重要な産業になることは明確であり、それを記述しなければいけないのではないか。</p>	<p>「鈴鹿市にとって今後、観光振興は市の活性化、経済政策として重要な位置づけである」旨の記述を追加します。</p>
3	2	方針の取組概要と方向性	<p>観光レクリエーション入込客数の表記が年度となっておりますが、暦年ではないでしょうか。</p>	<p>暦年に修正します。</p>
4	6	方針の取組概要と方向性	<p>6Pのアンケートのまとめの部分として、「鈴鹿市にとって今後、観光振興は市の活性化、経済政策として重要な位置づけと考え、観光基本方針を定めます」といった内容を追記すべき。</p> <p>その資料としてRESASの分析を活用すべきではないか。</p>	<p>「鈴鹿市にとって今後、観光振興は市の活性化、経済政策として重要な位置づけと考える」旨の記述を追加します。</p> <p>REASASの活用については今後検討していきます。 ※REASASとは、内閣府が開発した地域経済分析システムです。</p>

No.	ページ	項目	ご意見	対応
5	3	方針の取組概要と方向性	「方針の位置づけ」において参考にされている関係法規、関係計画、報告類ですが、まち・ひと・しごと創生総合戦略など、最新の方針等も参考にし、記載されてはいかがですか。	・鈴鹿市総合計画2023(2016年度～2023年度) ・鈴鹿市まち・ひと・しごと創生総合戦略(2015年度～2019年度) を追加します。
6	7	方針の取組概要と方向性	6Pに「市内各地域の文化に関する整備」という記述があるにもかかわらず、方針の柱に歴史・文化資源の活用がないのは不自然である。 このページ以降このように考えることを意見する。 方針は「モータースポーツ」・「産業観光」・「歴史・文化資源」・「スポーツツーリズム」・「スマートIC」・「広域観光」とし、それらを目的を「訪日外国人旅行」と「国内観光客」のそれぞれ増につなげることとして考えを整理すべきではないか。そうすることで、それぞれの目的に対する方針との交点部分が政策課題としてより明確にあると同時に、方針間の連携も意識しやすくなると思う。 また、2つの目的について、さらに「男性」「女性」「子ども」「高齢者」などをわければ、さらに詳細に方針からの取組を検討できるのではないか。	本方針は、鈴鹿市観光振興基本計画で取り組んできたことをふまえながら、今後成長していく可能性のあるものを柱としましたので、歴史・文化資源については、各柱(インバウンドによる誘客, 広域観光による誘客, 産業観光による誘客,)の中で重要な観光資源の一つと位置付け、活用を考えています。 「訪日外国人旅行」と「国内観光客」及び「男性」「女性」「子ども」「高齢者」からの視点については具体的な取組の中で検討していきます。
7	8	方針の取組概要と方向性	成果指標について 「F1日本グランプリ市民応援席観戦者数」 この成果指標では、鈴鹿市民のモータースポーツへの関心度を表すだけになる。「鈴鹿サーキットレース観戦者数」として、いかに記述しているレース観客数を網羅するべき。なので、この成果指標は変更すべき。	市民に認知されている「F1日本グランプリ市民応援席観戦者数」の認知度を計るためにこの指標にしました。
8	8	方針の取組概要と方向性	免税店というと大型店舗が多いイメージがあるが、小売店等の利益の保護はどうするのか？ 免税店が118店舗になるということだが、その内訳を詳細にしてほしい。	店舗規模の大小は、免税店許可の要件ではないため影響はないと考えています。 118店舗については、観光立国推進閣僚会議(主宰:内閣総理大臣)の「観光立国実現に向けたアクション・プログラム2015」の目標達成率を準用しています伸び率として準用しています。
9	8	方針の取組概要と方向性	成果指標について 「北伊勢広域観光推進協議会との共同企画での観光入込客数」 説明文について「北伊勢地域近隣市町」とあるが、シンプルに「近隣市町」だけでよいのではないか。	指標が北伊勢広域観光推進協議会での共同企画の入込客数としているため、北伊勢地域を入れていきます。

No.	ページ	項目	ご意見	対応
10	8	方針の取組概要と方向性	成果指標について 「スポーツ施設別利用者数」 市内のスポーツ施設について、現在の利用状況が飽和状態になっていないかという懸念。また、学校施設などを活用しての交流などの意識はどうなのか。	学校施設は観光施設として活用することはできませんが、スポーツツーリズムによる誘客については、本方針P25の第3章 鈴鹿ブランディング戦略「モータースポーツによる誘客」で記述しております。
11	8	方針の取組概要と方向性	成果指標について 「伝統産業会館の入館者数」 「歴史・文化資源による観光」を取り入れることで、この成果指標の設定を考える。	歴史・文化資源については、観光資源の一つと位置付け、方針の各柱の中での活用を考えております。
12	9～10	方針の柱における観光の現状と課題	F1と8耐だけでなく、ここにすくなくとも「4月の2&4、6月のFIMアジアロードレースとスーパー耐久、8月のソーラーカーとEne-1とGT1000、10月のスーパーフォーミュラ最終戦、11月の2輪最終戦」を追記すべき。	モータースポーツ全体の知名度をあげたいという主旨で2輪及び4輪を代表する2つのレースを記載しています。
13	10	方針の柱における観光の現状と課題	F1以外の認知度低い。F1や8耐以外のモータースポーツ情報を発信⇒具体的に認知度を高めたいイベント名を2、3点加筆しては、いかがでしょうか。	モータースポーツ全体の知名度をあげたいという主旨で2輪及び4輪を代表する2つのレースを記載しています。
14	11	方針の柱における観光の現状と課題	インバウンドの現状について、F1開催時とそうでない月との、三重県への訪日外国人の状況の比較分析程度は記述すべき。簡易なものであれば、RESASを活用すればすぐに出てくるはずである。	RESASの活用については今後検討していきます。
15	11	方針の柱における観光の現状と課題	インバウンドの課題について、「訪日外国人にとって魅力あるコンテンツと情報提供の不足」が鈴鹿市にあることを記述すべき。また、「今後は個人旅行者への対応充実も考えるべき」との主旨もあわせて追加すべき。	課題について「訪日外国人にとって魅力あるコンテンツと情報提供の不足や、インバウンドによる経済効果をいかに本市にまで波及させるかとともに、インバウンド受け入れ先としては、語学力を持つ人材や宿泊施設など、受け入れ態勢の不備や個人旅行者への対応充実も課題となっています。」に修正します。

No.	ページ	項目	ご意見	対応
16	12	方針の柱における観光の現状と課題	広域観光の課題について、「観光資源の豊富な伊勢志摩地域及び県南勢地域との連携」を記述すべき。また、伊賀上野など名阪道を意識すべき。 ※東海環状道でのつながりは四日市まで意識されているが、鈴鹿は現状ではそのライン上にないこと、また、三重県として観光での税収を考えれば、県内滞在を増やす考えも必要と考えられ、そのような中での鈴鹿市の位置づけを意識すべき。	「観光資源の豊富な伊勢志摩地域などと連携し、関西関東からの誘客を図る」と修正します。
17	12	方針の柱における観光の現状と課題	スマートインターからの誘客に関して、都市マスタープランの「活力ある都市づくり」での図から以下の部分を切り抜き挿入すべき。	都市マスタープランの「活力ある都市づくり」での図をP22に挿入します。
18	13	方針の柱における観光の現状と課題	産業観光について現状の部分で、「農林水産業など1次産業も盛んである。」などを記述すべき。	現状に「農林水産業など1次産業も盛んである。」旨を追記します。
19	13	方針の柱における観光の現状と課題	産業観光の課題について、「観光と1次産業をつなげることも必要。」という記述を追加すべき。	課題に「観光と1次産業をつなげることも必要。」という旨を追記します。
20	13	方針の柱における観光の現状と課題	鈴鹿の分析が入っていない。「江島総合スポーツ公園や三重交通スポーツの杜鈴鹿などの公設のスポーツ施設に加え、鼓ヶ浦と千代崎海岸、鈴鹿川サイクリングロードや鈴鹿山脈などの、多彩なスポーツ環境が鈴鹿市には存在している。」などの表現を追記すべきではないか。	現状の末尾に「本市は、江島総合スポーツ公園や三重交通グループスポーツの杜鈴鹿(三重県営スポーツガーデン)などの公設のスポーツ施設に加え、「伊勢の海県立自然公園」の鼓ヶ浦・千代崎海水浴場や「鈴鹿国定公園」の鈴鹿山脈などを有しており、多彩なスポーツ環境に恵まれています。」を追記します。

No.	ページ	項目	ご意見	対応
21	13	方針の柱における観光の現状と課題	スポーツツーリズムについて、課題の部分でイベントでの集客・交流人口の増だけに触れられているが、この部分で「ジュニアスポーツや部活動での他地域との交流支援、市民が主催する大会への集客と交流の支援、合宿などの積極的誘致」を記述すべき。	本方針P25に、スポーツ合宿参加者への情報発信や高校生や大学生の合宿の誘致につながるような観光情報の発信など記述しております。
22	14	鈴鹿ブランディング戦略(モータースポーツ)	定義の部分にレクスポーツとしてのモータースポーツの概念も入れておくべき、「ツーリングなどのようなカテゴリーも鈴鹿は取り入れ、レクスポーツ的要素も含めてモータースポーツと位置付けます。」のような表現を記述すべき。上記を記述の上で情報発信の部分で、観光誘客の取組に「近隣府県からのリピーター確保の推進」を入れるべき。	本方針においてツーリングは、モータースポーツと捉えていません。
23	14	鈴鹿ブランディング戦略(モータースポーツ)	市外への情報発信を公益社団法人三重県観光連盟や鈴鹿市観光協会等で行っていくようですが、そのような情報源を利用する方はもともと三重や鈴鹿に興味を持った方々が中心であるように思います。観光客の増加には、普段三重県や鈴鹿市を意識していない人たちを呼び込むことが重要ではないでしょうか。一例ですが、一般の方からすると地方の情報を得るメインツールはテレビが中心であるように思います。そのため、お金のことなど大変だと察しますがCMを利用してみるのも一つの手段として視野に入れていただきたいです。	今までのツールはもちろん、各種情報発信ツールの活用し、情報発信を積極的に進めるよう努めます。
24	16	鈴鹿ブランディング戦略(モータースポーツ)	市民が触れる機会の提供について、F1ばかりの記述になっているが、鈴鹿8耐なども取組として記述すべき。特に2段目については、F1だけでなく鈴鹿8耐でも可能な取り組みのほうである。	最終段落の「鈴鹿市民応援席」の次に「や鈴鹿8耐に先立ち実施した「Honda鈴鹿レーシングチームによる学校訪問」など」を追記します。
25	16	鈴鹿ブランディング戦略(モータースポーツ)	F1や8耐の写真を掲示していますが、それ以外のPRしたいモータースポーツイベントの写真にはいかががでしょう。	モータースポーツ全体の知名度をあげたいという主旨で2輪及び4輪を代表する2つのレースを記載しています。
26	17	鈴鹿ブランディング戦略(インバウンド)	観光情報発信力の強化の文面について、定住者だけでなく旅行者も重要であると考え、またインターネットの特性を考えより広く発信することを考慮し、「鈴鹿市に関心がある外国人市民と連携・協働し、Youtubeでの動画配信やSNS発信、翻訳・出版などを通じて、それぞれの母国はもちろん世界へと情報発信を行い、交流・集客人口の増加を図ります。」とすべき2段目には「鈴鹿市観光協会」も記述すべき。	国外への本市の観光情報発信力の強化の1段落目を「母国への情報発信に興味、関心がある外国人市民や本市に興味のある外国人と連携・協働し、それぞれの母国への情報発信(翻訳・出版、SNS発信など)を通して、集客・交流人口の増加を図ります。」に修正します。 なお、外国人観光客の受け入れ態勢の整備をするためには、「(一社)鈴鹿市観光協会」とも連携する必要があるため追記します。

No.	ページ	項目	ご意見	対応
27	17	鈴鹿ブランディング戦略(インバウンド)	受け入れ態勢について、「公共交通の玄関口と考えられる鈴鹿市観光協会など、主要スポットでの英語対応の充実を推進する。」と記述すべき。	外国人観光客の受け入れ態勢整備を「三重県の海外誘客部門や(公財)鈴鹿国際交流協会、(一社)鈴鹿市観光協会などと連携し、外国語表記の案内板の設置など外国人観光客の受け入れ態勢を整えます。また、市街地店舗において免税店に関心を持つ事業主と連携して、免税制度の普及に努めます。あわせて、主要スポットでのWi-Fi環境の整備や外国語対応の充実など、外国人観光客の情報収集手段を補完するために必要な方策を検討します。」に修正します。
28	17	鈴鹿ブランディング戦略(インバウンド)	「あわせて、Wi-Fi環境の整備や外国語表記の案内板の設置など、外国人観光客の情報収集手段を補完するために必要な方策を検討します。」とありますが、8年間かけて取り組む「具体的な取組」が挙げられていますので、「検討します」の表記を「実施します」等に変更してはいかがでしょうか。	予算措置を伴いますので、まずは検討という意味でこの表現としました。
29	17	鈴鹿ブランディング戦略(インバウンド)	海外の都市との連携について、3行目(市内のレーシングチームが参戦している)という表現は、「国際的なレースを行うサーキットを有する」とするほうが、より広く交流を考えられるのではないかと。	当面は鈴鹿市のチームと縁のある都市との連携を優先するという考えからこのような表現としました。
30	18	鈴鹿ブランディング戦略(インバウンド)	海外からの誘客促進について、「多文化共生について観光資源化」という内容を無理に記述しなくてよいのではないかと。	「あわせて多文化共生について観光資源化を進めます。」を削除します。
31	18	鈴鹿ブランディング戦略(インバウンド)	観光ルートの形成について、3段目の文面を「そして、これらの資源を活かしつつ、伊勢街道や東海道を活用し市内滞在時間を延ばすようにし、周辺市町の宿泊施設などと連携した外国人観光客向けの観光ルートの形成を図ります。」とすべきではないかと。	3段目の文面を「そして、これらの資源を活かしつつ、市内滞在時間を延ばすよう・・・」に修正します。
32	18	鈴鹿ブランディング戦略(インバウンド)	外国人観光客をターゲットにした観光ルートの形成について、インバウンドの狭い業界では「観光ルート」という言葉は、県をまたぐ広域のルートを指す場合が多いです。そのため、「市内の観光ルート」は違和感がありますので、「滞在性・周遊性の向上」の方が意味は伝わると考えます。	「外国人観光客向けの観光ルートの形成」を「外国人観光客の滞在性・周遊性の向上」に修正します。
33	18	鈴鹿ブランディング戦略(インバウンド)	外国人観光客をターゲットにした観光ルートの形成について、「周辺の市町の宿泊施設などと連携した」については、「市外の宿泊施設との連携」よりも、まずは市内宿泊施設の利用者増加を目指すべきだと思います。	「周辺市町の宿泊施設との連携した」を「宿泊施設・観光施設と連携し、」に修正します。

No.	ページ	項目	ご意見	対応
34	19	鈴鹿ブランディング戦略(広域観光)	広域観光の定義について、(高速道路を活かした広域観光の推進)と関連し、鈴鹿市にとっての広域観光のイメージが希薄と考える。少なくとも以下のように考え、地図も掲載すべきではないか。 「東名・東海北陸・中央などで連携する中京圏, 新名神・西名阪などで連携する関西圏, 伊勢自動車道・紀勢道などで連携する伊勢志摩・南紀圏の3方向に、鈴鹿市の広域観光連携は考えられる。」と記述すべき。	定義については、客観的な事実のみを記載しているため、このような表記としています。 なお、広域観光のイメージにつきましては、P19からの具体的な取組項目と将来構想に記述しています。
35	19	鈴鹿ブランディング戦略(広域観光)	広域観光に関する点で「各市町による広域連携体制の整備と継続的な推進」を行っていくようですが、素人目からすると鈴鹿、松阪、伊勢が三重の中心的観光地であるように思います。「テーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地をネットワーク化」することにつながると思いますので是非連携をはかっていたきたいと思います。例えば「広域観光周遊ルート」としては産業・工業の鈴鹿から食の松阪へ行き、そして歴史・文化の伊勢に行くというのが、他県出身の私から見て黄金ルートのように思います。 特に三重の観光は伊勢に大きく依存しているように思われます。年間一千万人も人が参拝するといわれる伊勢神宮での情報発信はとても効果的であるように思います。私は過去に伊勢神宮で鈴鹿の字を見た覚えがないので広報をしてみてもいいかがでしょうか。	いただいたご意見は、具体的な取組を検討する中で参考にさせていただきます。
36	20	鈴鹿ブランディング戦略(広域観光)	観光資源の発掘での1段落目(テーマ型・体験型の観光)の表現について、「日本の生活に触れるテーマ型・体験型の観光」という表現のほうが良いのではないかと。	テーマ型・体験型の観光については、日本の生活だけを念頭においたものではありませんので、このような表現としました。
37	20	鈴鹿ブランディング戦略(広域観光)	3段落目(自動車, 自転車, 徒歩)の表現を「自動車, バイク, 自転車, 徒歩」とすべき。	「オートバイ」を追記します。
38	21	鈴鹿ブランディング戦略(鈴鹿PASスマートIC)	「鈴鹿PASスマートICからの観光誘客」で4項目が掲載されていますが、そのうち、2つ目と4つ目の末尾が「広域観光周遊ルートの形成」となっています。 2つ目はIC周辺の観光スポットを、4つ目は四日市市、亀山市も含めた広範囲の観光地を周遊する内容になっていると思いますので、例えば、2つ目は「…鈴鹿PASスマートIC周辺地域を中心とした観光地へのルート形成」、4つ目は「…県北勢地域にまたがる広域観光周遊ルートの形成」とするなど、メリハリを付けた表現にしてはいかがでしょうか。	2つ目については、「スマートIC周辺地域を中心とした市内観光周遊ルートの形成」と修正します。 4つ目については、地域限定をしての広域観光の取り組みではないため、そのままいたします。

No.	ページ	項目	ご意見	対応
39	21	鈴鹿ブランディング戦略(鈴鹿PAスマートIC)	広域観光周遊ルートについて、地図を掲載しながら「既存の鈴鹿インター周辺の観光資源も連携し活用し、また、構想されているスポーツレクゾーンなども観光資源化しながら」という主旨の一文を2段落目に記述すべき。	「既存の鈴鹿インター周辺の観光資源を活用する。」旨を追記します。スポーツレクゾーンの観光資源化については現段階での計画はないため、検討していきます。
40	21	鈴鹿ブランディング戦略(鈴鹿PAスマートIC)	スマートIC周辺への取り組みも重要ですが、その前段としてPA内でのアピールについてNEXCO中日本と進める話があってもよいかと思えます。	本方針P22に、PA内での情報発信について記載しております。
41	21, 22	鈴鹿ブランディング戦略(鈴鹿PAスマートIC)	スマートインターからの誘客に関して、都市マスタープランの「活力ある都市づくり」での図から以下の部分を切り抜き挿入すべき。そして、以下のように円でくくるべきではないか。	図を挿入します。
42	23	鈴鹿ブランディング戦略(産業観光)	産業観光関連について、最上段の四角書きの説明文について「本市には、自動車産業や製造業など、産業観光としての施設が整備されていることから、これらの施設の更なる活用と、市内の1次産業も盛んであることから、産業観光の第2グループについて掘り起こします。」という表現にすべきではないか。	第2グループについては、第1次産業に特化して考えていませんので、このような表現としました。また、1次産業につきましては、P23「テーマ型観光による地域産業の6次産業化」に記載しております。
43	23	鈴鹿ブランディング戦略(産業観光)	定義の部分に「農林・水産・林業の1次産業」を鈴鹿市の定義に書き加えるべき。	加筆いたします。
44	24	鈴鹿ブランディング戦略(産業観光)	ビジネスモデルの形成について、2段落目の文章を「また、本市の伝統産業である伊勢型紙と鈴鹿墨のファンを創出するため、伝統産業会館や伊勢型紙資料館などの既存の施設と、そこにつながる伊勢街道や街並みを活かした産業観光のモデルを作ります。」とすべき。	ビジネスモデルの形成について、2段落目の文章を「また、本市の伝統産業である伊勢型紙と鈴鹿墨の愛好家を創出するため、伝統産業会館や伊勢型紙資料館などの既存の施設と、そこにつながる旧伊勢街道や街並みを活かした産業観光のモデルを作ります。」に修正します。
45	24	鈴鹿ブランディング戦略(産業観光)	ビジネスモデルの形成について、「モータースポーツ関連企業」を特出し、3段落目と4段落目の間に「また、鈴鹿市の特徴でもあるモータースポーツについて関連企業と連携し、」という一文を、(認知度向上に努め)の前に入れるべき。	企業の工場の中にモータースポーツ関連企業が含まれていると考えます。
46	24	鈴鹿ブランディング戦略(産業観光)	鈴鹿ブランドについてだが、まず鈴鹿市民にどのくらい浸透しているのかを示すべき、またはどのようなものがあるのか。まずは市民自身が知らないの外に発信することも出来ない。	鈴鹿ブランドについては、説明欄に商工会議所ホームページのアドレスを追記します。

No.	ページ	項目	ご意見	対応
47	25	鈴鹿ブランディング戦略(スポーツツーリズム)	スポーツツーリズムについて、最上段の四角書きの文章について「これまで市内のスポーツ団体などが育成してきた市外のスポーツ団体との交流や、日常的な合宿の誘致に取り組み、それを観光誘客とつなげます。」という一文を追加すべき。	スポーツ関係団体との連携体制の整備や合宿などの誘致の側面支援について、本文P25に記載しております。
48	25	鈴鹿ブランディング戦略(スポーツツーリズム)	連携体制の整備の部分で、「これまでに培われた他地域のスポーツ団体とのつながりを活かし、来訪された方々のおもてなしに取り組み、鈴鹿市の魅力発信に取り組みます。」という一文を追加すべき。	ご意見の内容については、スポーツ団体との関係についても含まれており、本方針の範囲を超える部分もありますので、「スポーツ団体と連携しながら情報発信に努めます。」という表現にとどめています。
49	25	鈴鹿ブランディング戦略(スポーツツーリズム)	スマートインターチェンジの項目について、スマートICはETC搭載車しか通れないようですが、それは初見の観光客には少し酷なところもあるように感じます。また、鈴鹿市民もこのICの利用にETC必須となってしまうのでしょうか。あまり優しくない印象を受けます。平成24年国土交通省の調べによるとETCの搭載率は50%ほどのようですので、もしスマートICの導入するときは鈴鹿市内での広報にも力を入れていただきたいと考えています。伊勢へ向かう人が立ち寄るような地域色と魅力あるICにしていきたいと思えます。	スマートICの市内への広報につきましては、留意いたします。パーキングエリアについては、地域色と魅力あるものとなるよう行政として協力していきます。
50	26	鈴鹿ブランディング戦略(スポーツツーリズム)	来場者への情報発信について、「スポーツイベントは市産品の重要なアピールの場と考え、特産品ブースの設置や、参加者への市内産品の提供などをコーディネートし、積極的な情報発信を行います。」と記述すべきではないか。	情報発信の具体的な手法については、今後検討していきます。
51		全体	今後想定される民泊など、多様な宿泊施設の可能性についての検討はどうなっているのか。宿泊施設の建設は難しいだろうが、オートキャンプ場を整備するなどにより、スマートインター周辺の活性化とともに、より柔軟な宿泊の可能性を提供できるのではないか。鈴鹿市として観光方針に入れるべきである。	宿泊施設の確保については、広域観光の周辺市町との連携の中で記載していますが、多様な宿泊施設の可能性については、今後検討していきます。
52		全体	いわゆるB級グルメや美食といった意味での「食」についての記述が弱いのではないか。	「食」について特に記述していませんが、それぞれの柱の中で検討していくものと考えています。
53		全体	6つの柱の具体的な取扱いについて別の機会をもつのであればよいと思えますが、今回の方針をもって実働するのは難しいと感じました。	本方針は、進むべき方向性を示すものと位置付けていますので、6つの柱の具体的な事業については、官民一体で進めていきたいと考えています。